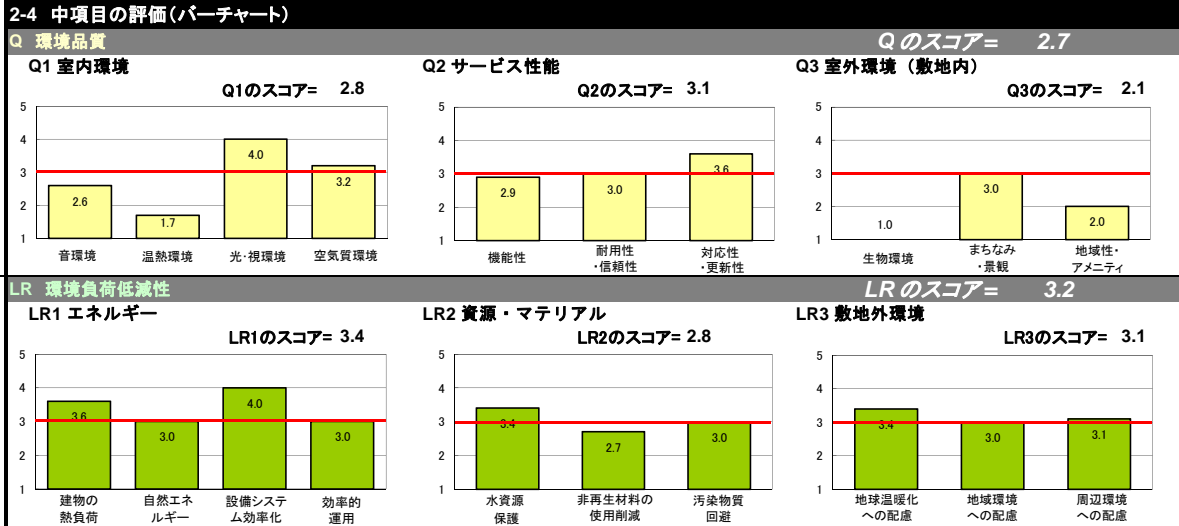
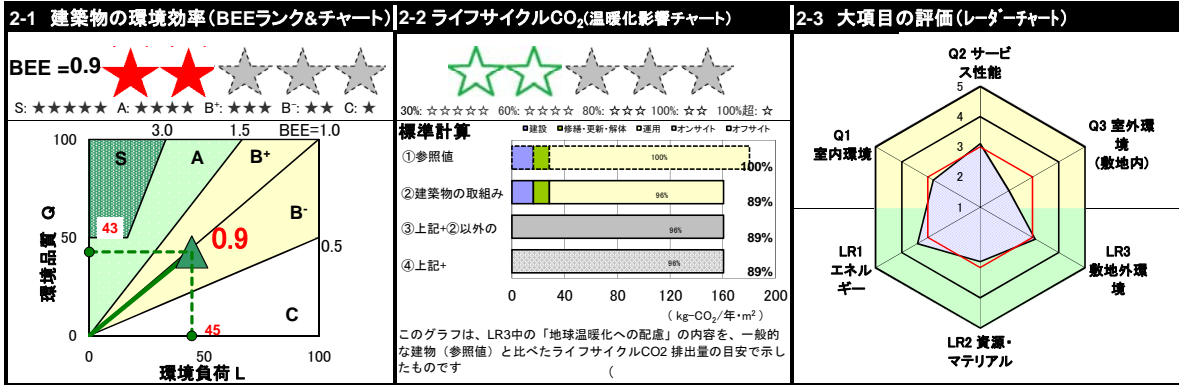


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) マックスバリュ小牧駅西店	階数	地上1F
建設地	愛知県小牧市4丁目115他	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	461 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	5,840 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年5月 予定	評価の実施日	2014年12月4日
敷地面積	6,549.93 m ²	作成者	N PLAN
建築面積	2,885.48 m ²	確認日	2014年12月4日
延床面積	2,792.78 m ²	確認者	N PLAN



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>10.7 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	10.7 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	10.7 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	単独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質								2.7	
Q1 室内環境								2.8	
1 音環境								2.6	
1.1 騒音								3.0	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	-		
2 設備騒音対策				-	-	-	-		
1.2 遮音								3.0	
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	-	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音								1.0	
1.0				1.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境								1.7	
2.1 室温制御								2.5	
1 室温				3.0	0.50	3.0	-		
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-		
3 外皮性能				4.0	0.17	3.0	-		
4 ゾーン別制御性				1.0	0.33	-	-		
5 温度・湿度制御				-	-	-	-		
6 個別制御				-	-	-	-		
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-		
8 監視システム				-	-	-	-		
2.2 湿度制御								1.0	
1.0				1.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式								1.0	
1.0				1.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境								4.0	
3.1 昼光利用								5.0	
1 昼光率				3.0	0.50	3.0	-		
2 方位別開口				-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備				5.0	1.00	3.0	-		
3.2 グレア対策								3.0	
1 照明器具のグレア				-	-	3.0	-		
2 昼光制御				-	-	-	-		
3 映り込み対策				-	-	-	-		
3.3 照度								3.0	
1.0				3.0	0.50	3.0	-		
3.4 照明制御								3.0	
1.0				3.0	0.50	3.0	-		
4 空気環境								3.2	
4.1 発生源対策								4.0	
1 化学汚染物質				4.0	1.00	3.0	-		
2 アスベスト対策				-	-	-	-		
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-		
4 レジオネラ対策				-	-	-	-		
4.2 換気								2.0	
1 換気量				3.0	0.30	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.50	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.50	3.0	-		
4 給気計画				-	-	-	-		
4.3 運用管理								3.0	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.20	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-		
3.0				3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能								3.1	
1 機能性								2.9	
1.1 機能性・使いやすさ								3.0	
1 広さ・収納性				3.0	0.40	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性								2.3	
1 広さ感・景観				5.0	0.30	3.0	-		
2 リフレッシュスペース				1.0	0.33	-	-		
3 内装計画				1.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理								3.5	
1 維持管理に配慮した設計				3.5	0.30	-	-		
2 維持管理用機能の確保				4.0	0.50	-	-		
3 衛生管理業務				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性								3.0	
2.1 耐震・免震								3.0	
1 耐震性				3.0	0.48	-	-		
2 免震・制振性能				3.0	0.80	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数								3.2	
1 躯体材料の耐用年数				3.2	0.33	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.23	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				5.0	0.09	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				5.0	0.15	-	-		
3.0				3.0	0.23	-	-		

2.4 信頼性				3.0	0.19			
1 空調・換気設備				3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3 電気設備				3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.6	0.29			3.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			
1 階高のゆとり			階高4.7m	5.0	0.60	3.0		
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.09	5.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			
6 バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	●	③		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.4
1 建築物の熱負荷抑制			BPI _m =0.93	3.6	0.30			3.6
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			BEI _m =0.87	4.0	0.30			4.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				4.0				
集合住宅の評価				3.0				
4 効率的運用				3.0	0.20			3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50			
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1 節水			主要水栓に節水コマ。また、節水型便器を使用。	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63			2.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②	再生クラッシュラン 砕石部分	1.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		躯体・鉄鉄+仕上材	4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			
1 消火剤				-	-			
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3 冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	LCCO2 89%	3.4	0.33			3.4
2 地域環境への配慮				3.0	0.33			3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制	●			3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●			3.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	1.00			
2 振動	●			-	-			
3 悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				3.0	-			
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				3.7	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1)→1ポイント、2)→2ポイント	4.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

重点項目スコアシート

(仮称)マックスバリュ小牧駅西店

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEEあいち評価マニュアル2011年度

■評価ソフト:

CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.7_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) マックスバリュ小牧

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 建物内部は利用者の健康・快適さ、外部は環境配慮を重視した設計になっている。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 F☆☆☆☆部材の採用等、利用者の健康に配慮した計画を行っている。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 売場の天井高さ3.6m、階高4.7mにより、開放感および空間にゆとりのある計画となっている。さらに耐用年数の長い部材を採用している。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内の緑化により、緑量の確保および暑熱環境の緩和に努めている。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 設備システムの高効率化に努めている。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水器具の採用による資源の浪費を抑えている。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 広告物照明の光の性質および省エネに関する配慮がなされ、光害の抑制に努めている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。